

授業科目名	外国語Ⅲ（中国語）	選択必修	開講年次	2	単位数	2
科目区分	外国語科目					
サブタイトル	中国語で作文を挑戦しよう。		担当者	加藤 阿幸		
講義概要	<p>【概要】 中国語ⅠとⅡは会話を中心とした授業形態をしましたが、中国語Ⅲは中国語で作文を挑戦してほしいと思います。しかし、11月からは11月末の中国語試験を受ける学生や検定試験の模擬テストを通して、自分の中国語の能力を試す学生のために、検定試験の問題を解ける授業が中心となる。最後の5回ほどの授業は教科書の後半を続けます。</p> <p>【到達目標】 中国語検定試験の級をゲットしよう。</p>					
履修条件	中国語ⅠとⅡをクリアした人。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 実用中国語作文（陸慶和他著）好文出版</p> <p>【参考書】 日中辞典、中日辞典</p>					
授業回数	内容					
1	第一課と第二課。主に存在を表す“有”と“在”について及びその練習問題。（p8-11）					
2	第三課と第四課。主に形容詞述語文を中心に。それぞれの課の練習問題（p12-15）					
3	第五課と第六課。主に助動詞と副詞について。それぞれの課の練習問題（p16-19）					
4	第七課と第八課。主に経験の表し方及びその練習問題。（p20-23）					
5	第九課と第十課。主に前置詞の使い方について。それぞれの練習問題（p24-27）					
6	中国語検定試験に向けての特訓（発音篇）					
7	中国語検定試験に向けての特訓（短い会話篇）					
8	中国語検定試験に向けての特訓（文法篇）					
9	中国語検定試験に向けての特訓（過去問題）					
10	第十一課と十二課。主に進行の表し方について。それぞれの練習問題。（p28-31）					
11	第十三課と十四課。主に状態の持続について。それぞれの練習問題。（p32-35）					
12	第十五課と十六課。結果補語と方向補語について。それぞれの練習問題。（p36-39）					
13	第十七課と十八課。可能補語と程度補語について。それぞれの練習問題。（p40-43）					
14	作文添削。					
15	作文発表。					
評価方法	出席率、平常点と期末試験の総合評価。					
評価基準	上記授業の単元の内容について、決められた課題や宿題とも90%以上提出し、平常試験、期末試験とも80点以上あり、出席も12回以上ある学生には「A」を与える。上記提出物の提出率が70%以上、諸試験とも80点以下、70点以上、出席12回以上の学生には「B」を与える。上記提出物の提出率が60%以上、諸試験とも70点以下、60点以上あり、出席12回以上の学生には「C」を与える。上記指定したことに満たさない学生には、その評価を「D」または「E」とする。					
その他	欠席は3回以上で単位放棄とみなします。					